

県中教研 音楽部会だより

第 34 号

発行日 平成31年3月
発行所 富山市千歳町1-5-1
富山県中学校教育研究会
編集責任者 久田 潤
題 字 金山 泰仁 先生

心が動く音楽活動を目指して

指導主事 藤井 昭彦

本年度の学校訪問等では、2021年度の新学習指導要領全面実施を見据えた様々な授業改善を試みられている場面を見ることができました。そして、研究大会でも富山市と高岡市の2校において、「『音楽的な見方・考え方』を働かせた学習活動の工夫」に焦点を当てた授業が提案されました。

その中の一校の月岡中学校では、教師が【共通事項】に示された「音楽を形づくっている要素」から「旋律」「強弱」にねらいを絞るための選曲や発問、学習環境の整備を工夫することで、生徒は迷いなく旋律や歌詞から表現したい「旅立ちの時」を目指していました。そして、旋律から跳躍部分を見付けたり、「君だけの花を咲かせよう」といった歌詞から感じ取ったりした願いを強弱表現に生かそうと、主体的・協働的に表現をつくり上げる音楽活動が展開されていました。

音楽科においては、音楽を奏でたり聴いたりしながら、生徒の見方・考え方を働かせる場を設定し学習活動することが求められます。その際に大切にしたいことは生徒の心を動かすことです。

文部科学省の臼井学教科調査官は、「音楽活動を通して音楽科の学習を成立させることが教師の仕事であり、そのヒントは【共通事項】アにある。それを支えとすることにより音楽活動は学習活動に向かっていく。そして、音や音楽によって心が動く場面を位置付けた学習活動によって、心の動きは充実し、その先に音楽活動によって心が動く姿を期待する。」と述べておられました。このように心が動く音楽活動の中にこそ、生徒の主体的な音楽への取組や深い学びへとつながると考えます。

音楽活動により心が動き、授業後に、その日の教材曲等を口ずさみながら音楽室を出るような生徒の姿を目指していきたいと思います。

(東部教育事務所)

まず教師の音楽活動から

部長 久田 潤

昨年度から中教研に参加し、本年度は部長として研究部協議会や東西の研究大会に参加させていただきました。音楽科の授業が少なくなり、郡市によっては研究組織も確立できない現状を目の当たりにし、よりよい研究の在り方について汗を流すことができればと思っています。

さて、新学習指導要領の全面実施まであと2年となりました。この期間に何ができるかが勝負です。2023年には全日音研富山大会も予定されており、全国の音楽教師への提案を意識した授業改善が求められます。今からの積極的な研修による富山県音楽科教育の高まりを期待したいものです。

しかし、学校行事を精選し働き方改革が叫ばれるこの時代に、これ以上の研修を確保するのは難しいでしょう。中教研だけでなく、県音研も素晴らしい講師を招聘してレベルの高い研修会を行っています。回数が限られているのです。

そこで私は、音楽科教師こそ音楽を積極的に体験する場に参加してはどうかと提案します。演奏会に足を運ぶことです。演奏者としてステージに立つこともよいでしょう。教師が演奏をしたり聴いたりすることと学習指導要領とは全く違うものと捉えがちですが、表現と鑑賞です。文字で書いてある学習指導要領解説の内容を音や音楽として納得させてくれます。音楽観は音楽経験で培われるのです。実際に、プロの演出家や指揮者からの指導を受けると、自分の音楽的な見方・考え方が大きく広がったように感じます。聴衆としても同じような体験ができます。生徒にその体験を熱く語ることで、音楽を愛好する心情を育み、音楽に親しむ態度を養うこともできます。

さあ、早速、自分を磨いてくれる魅力的な研修会や音楽団体、演奏会を探し、積極的に参加しましょう。毎日の授業がもっと楽しくなるはずで

(南・井口中)

第62回 研究大会報告

【研究主題】幅広い音楽活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するにはどうすればよいか。
－「音楽的な見方・考え方」を働かせた学習活動の工夫－

東部地区（富・月岡中）

東部地区は、富山市立月岡中学校で藤塚知子教諭による1年生の合唱の授業が行われた。題材は「旋律の流れを知覚し、強弱表現と結び付けて、曲にふさわしい表現を工夫しよう」、教材曲は「旅立ちの時」であった。「曲にふさわしい表現を工夫し、感動的な『旅立ちの時』をつくろう」を学習課題とし、パート毎に話し合いながら歌唱表現を工夫しながら歌唱活動に取り組むという展開であった。生徒は、より感動的な表現にするために、それぞれの部分にふさわしい表現にしようとして話し合いながら歌唱活動に取り組んでいた。また、ワークシートは旋律の流れや強弱記号等に注目しながら、表現したい思いや意図を書き込んでいくもので、本時のねらいに沿ったものであった。

部会協議①では、ねらいに迫るための手立てについてや、豊かな合唱表現にするための効果的な指導方法等が話題となった。藤井昭彦指導主事からは、生徒が学習過程で「音楽的な見方・考え方」を働かせることができるようにするためには、日頃から理想となるような音楽に触れさせること、知覚したものと感受したものととの関わりについて考え、自己のイメージや感情と関連付けながらその音楽のよさについて考えさせることで、より深まりのある音楽表現につながるなどの助言をいただいた。部会協議②では、授業力向上アドバイザーの齊藤忠彦先生より、「新学習指導要領を踏まえての音楽科授業づくり」と題して、「音楽的な見方・考え方」「音楽科の存在意義」「新学習指導要領のポイント」等について、映像や音楽等を交えながら分かりやすく解説していただいた。



ての音楽科授業づくり」と題して、「音楽的な見方・考え方」「音楽科の存在意義」「新学習指導要領のポイント」等について、映像や音楽等を交えながら分かりやすく解説していただいた。

映像や音楽等を交えながら分かりやすく解説していただいた。

相山 知範（富・速星中）

西部地区（高・伏木中）

西部地区大会は、高岡市立伏木中学校で村田幸子教諭による3年生の「平調『越天楽』－管弦－」の鑑賞の授業が行われた。題材は「雅楽に親しみ、そのよさを味わおう」で、雅楽の特徴を感じ取るため、管絃とオーケストラによる演奏を聴き比べ、グループで特徴を話し合うという内容であった。聴く視点を「音色」「リズム」「テクスチュア」と提示したことで、生徒たちも視点を意識して集中して聴くことができていた。グループの話し合いにはKJ法が取り入れられ、付箋にそれぞれがキーワードを記入し、それをもとに生徒たちが互いに意見を交わし合う活動になっていた。その後、いくつかのグループが発表したが、村田教諭の問い返す質問が生徒の思いを引き出し、とても効果的であった。生徒は雅楽のよさについて、その背景となる文化・歴史と関連付けて考えることができ、本時のねらいに迫る授業となった。

部会協議①では、授業についての協議が行われ、「KJ法が大変有効だったこと」「他の雅楽にも触れることができたよかったです」等、活発な意見交換が行われた。西部教育事務所の干場恵利華指導主事からは、今回の授業では、生徒が自分の意見をもつ時間があつたことやKJ法で互いの関わりがあつたこと等、学習指導の工夫が見られたと助言をいただいた。

部会協議②では、「音楽的な見方・考え方を働かせた学習活動の工夫とは」についてグループ協議を行い、具体例を基に活発な話し合いが展開された。干場指導主事から、授業は常に生徒を主語に



考え、教師は扇の要として、生徒の気づきを拾い上げることが大切であると助言をいただいた。

柳原 薫（小・蟹谷中）

全日本音楽教育研究会 和歌山大会に参加して

中学校部会では、2つの授業が公開されました。1限に公開された1年生の表現創作「言葉のもつリズムや抑揚を手がかりに、簡単な旋律をつくろう『自分の俳句、川柳』」では、言葉のイントネーションを「星座表」と呼ばれる方法で図式化し、言葉の抑揚と旋律の動きを視覚的にイメージしながら、旋律創作に取り組みました。前時までに、多くのリズムパターンが提示されており、生徒たちは休符を効果的に使用したリズムで、言葉の「間」を表現していました。2限に行われた3年生の表現歌唱「情感をこめた歌い方を工夫しよう『ぜんぶ』」では、1年次から毎年卒業式に全校合唱で歌ってきた「ぜんぶ～卒業式バージョン～」を、特に本時ではヴォカリーゼ（ル…ラ…）の部分の表現に焦点を当て、歌い方を考える取組を行いました。ソプラノとアルトの合同パート練習では、ある生徒が「相手のパートが聞こえないと上手くハモれない」と発言し、ソプラノとアルトパートの生徒が交互に並んで歌い合わせる練習方法を提案するなど、意欲的に合唱活動に取り組む姿を見ることができました。

2日目の全体会では、和歌山市や紀の川市内の小中学生による研究演奏が披露され、地元につながる民謡や地元ゆかりのある作曲家の作品を演奏するなど、テーマ性の強い演奏会となりました。また、東京藝術大学の澤和樹学長による記念講演があり、素晴らしいヴァイオリン演奏を交えながら、音楽の豊かさや奥深さを感じることができた時間を過ごすことができました。

2日間を通して、授業や全体発表、レセプションを含め、和歌山県の先生方の本研究大会に対する熱意を感じました。2023年度の富山県開催に向けて、一層意識を高めて日々の研修に取り組むことの必要性を強く感じました。

荒木 学（富・城山中）

二つの全国大会に参加して

西條中学校吹奏楽部は今年、二つの大きな大会に出場する機会に恵まれました。私自身10年ぶりの吹奏楽部顧問であり、生徒以上に不安を抱いてのスタートとなりました。すぐにコンクールの自由曲を決定し、新体制での部活が始動しました。ところが著作権上のトラブルからその曲を演奏することができなくなり、急遽曲目を変更しなければならなくなりました。この事態に生徒たちは大きく動揺しましたが、何とか気持ちを切り替え、曲作りに入っていました。新しく決めた曲は「大いなる約束の大地～チングス・ハーン」。標題音楽ではないものの、この雄大な曲を演奏するために、生徒と一緒に、お互いに意見を出し合っ自分たちのチングス・ハーン像を作りあげました。最後の東日本大会では、どの団体も小編成とは思えない厚みのあるサウンドや高い表現力で素晴らしい演奏を会場一杯に響かせており、レベルの高さを感じました。本番のステージでは、生徒たちも私も「この仲間でこの曲を演奏するのはこれが最後」という寂しさを感じながらも、今まで自分たちで作りあげてきた音楽を楽しんで演奏することができました。

このような大舞台を経験することができたのは、熱心にご指導いただいた講師の先生方、生徒たちを温かくサポートしてくださった保護者の皆様、ご多用の中、毎回応援に来てくださった校長先生を始めとした先生方など、多くの方々のご支援があったおかげだと実感しています。全ての方々に感謝の気持ちをもちながら、これからもより高い音楽表現を目指して生徒たちと共に日々の

活動に取り組んでいきたいと思っています。



黒田 雄一郎（氷・西條中）

フレッシュさんから

音楽を通して伝えたいこと

私が感じている音楽のよさを少しでも伝えたいと思い、毎日の授業に取り組んでいます。特に、苦手意識をもつ生徒ができたことを実感できるよう、ペアや班での活動を取り入れ、仲間のよさを認め合うことを大切にしてきました。リコーダーが得意な生徒、歌うことが得意な生徒等、それぞれが活躍できる場を設けることで、今まで気付くことのできなかつた友達のよさを見付けることができるようにしました。

合唱コンクールでは、一人一人がクラスの一員として責任をもってパート練習に取り組むこと、声を合わせることを目標に練習を積み重ねるよう指導しました。音と音が重なる心地よさを感じさせたいと思い、パート練習を丁寧に行い、組み合わせを変えながら旋律を合わせました。そうするうちに、生徒たちが音の重なりを楽しみながら歌ったり、バランスを考えて歌ったりするようになりました。また、言葉を大切に、イメージをもって歌うことにも挑戦しました。クラスで想いを伝え合い、作詞、作曲者の想いを大切にしながら、どの言葉を大切に歌いたいかを考えさせました。本番では、緊張のために練習どおりに歌えなかつたクラスもありましたが、各クラスの想いが詰まった合唱になりました。

私は、音楽の授業を通して、音楽のよさや技術を伝えるだけでなく、生きる力も身に付けさせたいと考えています。どんなに緊張しても自分を信じ、練習したことをやり遂げる強さ、諦めないでこつこつ繰り返す粘り強さ、失敗を恐れぬポジティブな気持ちをもてる生徒を育てたいです。

いつまでも心に残る授業を目指し、広い視野と探究心を持ち続け、生徒と共に学び、成長していきたいと思ひます。

金田 奈緒子 (富・呉羽中)

1年間を振り返って

新規採用教職員として高岡西部中学校に赴任し、まもなく1年が経とうとしています。日々の授業や行事に取り組む中で、あっという間に月日が流れたように思ひます。学習の目標が達成できていたのか、生徒や先生方としっかり関わっていたか反省するばかりの毎日でしたが、校長先生はじめ周りの先生方、そして生徒たちに支えられて今日に至っています。

これまでの中で心に残っているのは合唱コンクールです。クラスで目標や練習計画を立て、リーダーが中心となって合唱を創り上げていました。

本番では、1年生は言葉をはっきり伝え、体全体で一生懸命歌っている姿が印象的でした。2年生は声量だけではなく歌詞の内容を生かしながら一人一人の感じた思いをつなぎ合わせ、美しいハーモニーを響かせていました。3年生は美しい発声で音楽の構造を生かして表現を工夫していました。どの演奏もクラスの心の響きとなって聴く人を感動させる素晴らしい合唱でした。さらに今年度から、「この街のどこかで」という地域をテーマにした合唱に全校で取り組むことにしました。練習から本番まで3年生がリーダーとなり、生徒たちが心ひとつに歌う姿を見て、この歌がずっと歌い継がれていくことを心から願ひました。反省することもたくさんありますが、来年はもっとすばらしい合唱コンクールにしたいと心から思ひました。

本校は以前から歌うことが大好きな生徒が多くいます。「合唱の西中」として自分たちの合唱に誇りをもっています。これからも、歌が大好きな生徒、授業を楽しみにしている生徒たちがますます増えていくよう、私自身が研修を重ね、努力を重ねていきたいと思ひます。

米島 栞 (高・高岡西部中)